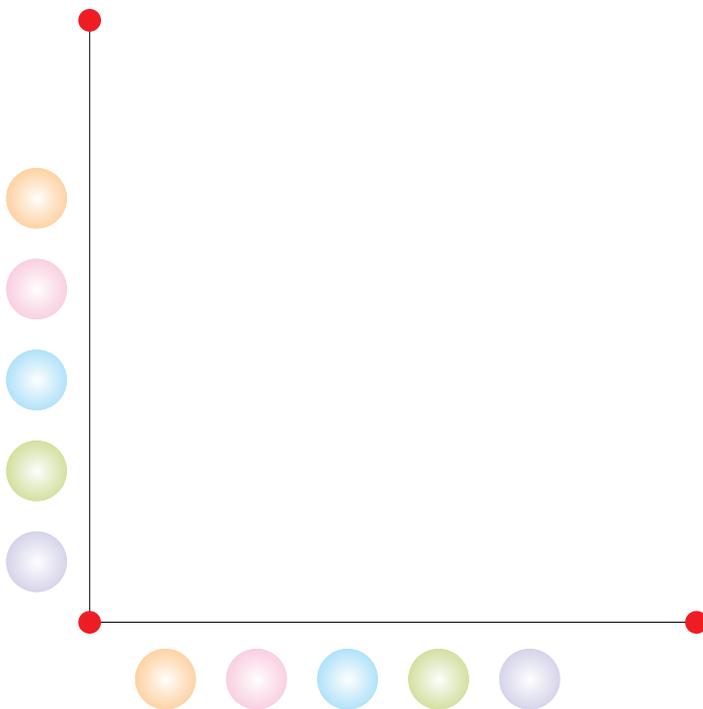


第 **106** 期

株主のみなさまへ

中間報告書

平成18年4月1日▶平成18年9月30日



日本をおいしくする

SHOWA

昭和産業株式会社

証券コード●NO.2004●



当 中 間 期 に お け る ポ イ ン ト



連結対象子会社の増加

中期計画「SHOWA-ism計画06-08」の基本姿勢のひとつである「グループ経営の強化・向上」に基づき、(株)オーバン、昭産運輸(株)、(株)スウィングベーカリーの3社を新たに連結対象とし、今期より連結子会社を13社とした。



減収・減益

前中間期比で売上高が減収。営業利益、経常利益、中間純利益ともに減益。



事業別の状況

食 品 事 業：新たに連結対象とした2社の売上増加分があるも、家庭用商品の販売数量・販売価格の低下などにより減収。また、原油価格、原材料価格など各種コスト上昇などの影響により営業利益も減益。

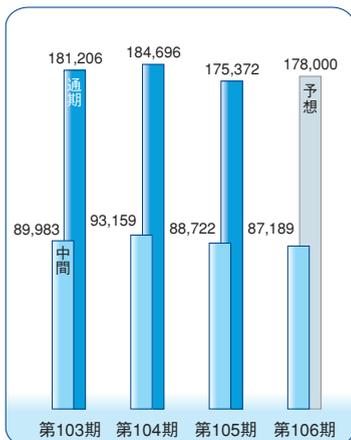
飼 料 事 業：配合飼料の売上高は増収、鶏卵は数量・価格の低下で減収となるも、販売コスト削減などにより増益。

倉 庫 事 業：荷役量・保管積数増加により増収となるも、自社貨物の扱い量の減少により減益。

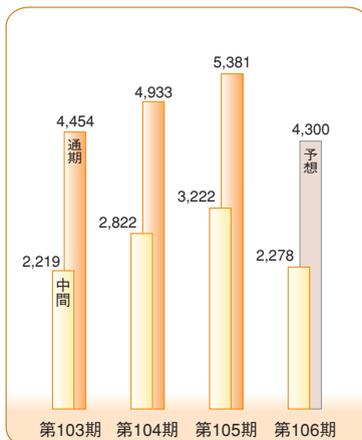
その他事業：札幌マンション販売終了などにより減収となるも、販管費減少などにより増益。

連結業績の推移

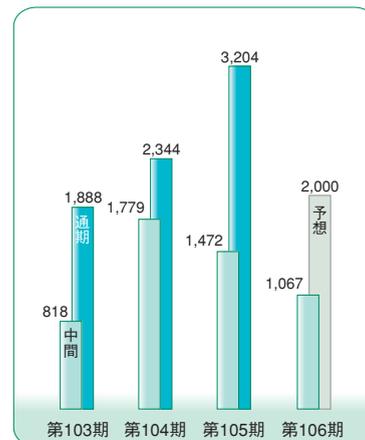
■売上高 (百万円)



■経常利益 (百万円)



■当期 (中間) 純利益 (百万円)





株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。ここに、第106期上半期（平成18年4月1日から平成18年9月30日まで）の事業概況をご報告申し上げます。

当上半期の我が国経済は、原油価格の高騰などのマイナス要因があったものの、企業収益の改善により活発な設備投資が継続し、雇用や個人消費も好調に推移するなど、景気の拡大が顕著にみられました。

しかしながら食品業界におきましては、原油価格の高騰を受け原材料の調達コストが増加する一方、少子高齢化により市場が縮小傾向にあるなか、企業間競争は一層激しさを増し、依然として厳しい状況が続きました。

このような状況のなかで、当グループは平成18年4月より新中期計画「SHOWA-ism計画06-08」に基づき、経営基盤の強化やグループ経営の向上、CSRの推進に努めると同時に、生産・管理部門におけるコスト削減や東アジアへの業務拡大などに取り組んでまいりました。

これらの結果、当上半期の売上高は、871億89百万円と、前年同期に比べ15億33百万円（1.7%）の減収となり、経常利益は22億78百万円と前年同期より9億43百万円（29.3%）の減益となりました。中間純利益は、10億67百万円と、前年同期に比べ4億5百万円（27.5%）の減益となりました。

今後の我が国経済は、個人消費の継続的な拡大が見込まれ、引き続き好調に推移するものと考えられますが、原油相場や米国経済の動向によっては企業収益に大きな影響を与えかねず、決して楽観視できない状況が続くものと予想されます。

当グループといたしましては、日本をおいしくする「食」に関する穀物を主体とした事業を通じて、様々な食材の総合力を活かし、「人々の健康で豊かな食生活に貢献する」という企業理念を追求していく所存でございます。

株主の皆様におかれましては、尚一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長
福井 茂雄

平成18年12月

事業別の状況



食品事業

食品事業では、全体の販売数量は前年同期を上回りましたが、家庭用商品の販売数量、販売価格が前年同期を下回った結果、売上高は637億70百万円と、前年同期に比べ7億73百万円（1.2%）の減収となりました。

■製粉部門

小麦粉は、食品需要が低迷するなか提案型の営業活動を展開しましたが、販売数量は減少しました。プレミックスは、新製品の投入や講習会の開催などの販売促進活動を進めましたが、販売数量は減少しました。ふすまについては、海外穀物相場が堅調に推移したことにより、販売価格は堅調に推移しました。

なお、当上半期より新連結子会社 株式会社スウィングベーカリーにおいて『焼き立てパン事業』を開始いたしました。これらの結果、売上高は185億91百万円（前年同期比1.0%増）となりました。

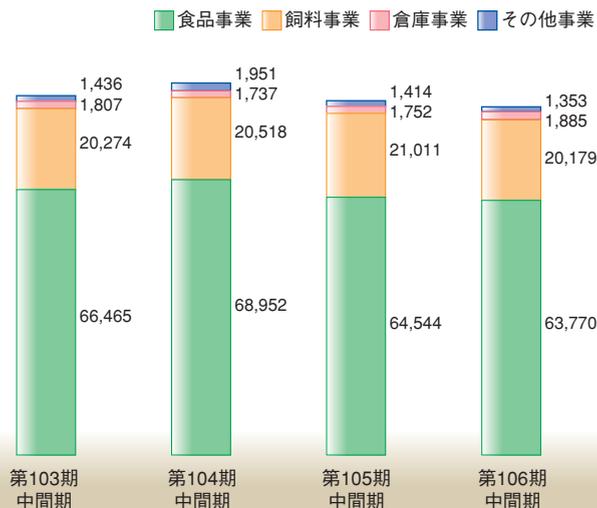
■油脂部門

油脂は、世界的なBDF（バイオディーゼル燃料）需要の増加による原料価格の高値推移に加え、海上運賃の上昇やミールバリューの悪化等を起因としたコスト上昇が続き、厳しい環境での販売を余儀なくされました。そのなかで従来からの採算重視の販売とともに、業態別ユーザー対応の販売を強化した結果、販売数量が増加しました。ミールについては、菜種油の生産量増加もあり、販売数量を伸ばしました。業務用食材は、パスタが低調だったものの、天ぷら粉の中食市場、特にスーパー向け惣菜への強化・注力を進めた結果、前年同期並みの販売数量を維持しました。

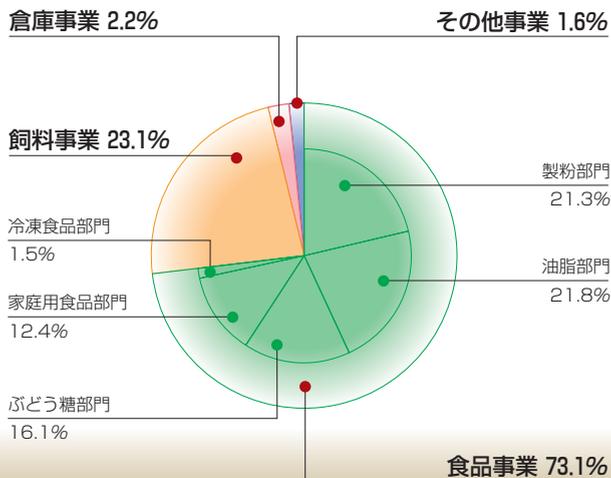
なお、当上半期より新連結子会社 株式会社オーバンにおけるファーストフード店向け業務用食材の売上高も実績に含めております。

これらの結果、売上高は190億31百万円（前年同期比5.1%増）となりました。

事業別売上高推移（単位：百万円）



事業別売上高構成比



637億70百万円（前年同期比1.2%減）



■ぶどう糖部門

糖化製品は、主原料であるとうもろこしや重油の価格が高騰し、また、長梅雨・冷夏による悪天候が続くなかで、価格改定およびシェアの維持に努めました。その結果、異性化糖の出荷は好調を維持したものの、発泡酒用水あめの出荷が不調となり、全体の販売数量は大幅に減少しました。乾燥でん粉の販売数量は、ビール向けの需要が回復したため、増加しました。

これらの結果、売上高は140億63百万円（前年同期比0.5%増）となりました。

■家庭用食品部門

家庭用食品部門は、小売業者間の競争激化に加え、原油高により原材料・包材等が高騰するという厳しい状況のなか、採算重視の販売を行いました。その結果、全体的な販売数量は減少しましたが、プレミアムオイル「オレインリッチ」については当社イメージキャラクターの綾戸智絵さんを起用した消費者キャンペーンを行い、販売が好調に推移しました。また、主力のミックスについては、4月に新製品を3品投入し、年間の販売計画に基づいた提案型の企画営業を行った結果、特に加糖ミックスの販売が伸びました。

昭産商事株式会社では、家庭用米や調味料・香辛料等の販売数量が前年同期を下回りました。

これらの結果、売上高は108億19百万円（前年同期比13.7%減）となりました。

■冷凍食品部門

昭和冷凍食品株式会社における冷凍食品は、コンビニエンスストア向けのスナック用商品（たこ焼き）の販売が軟調に推移したことや、惣菜向け商品の販売数量が伸び悩んだ結果、売上高は12億63百万円（前年同期比15.7%減）となりました。

飼料事業 ●●● 201億79百万円（前年同期比4.0%減）



配合飼料では、引き続き利益率を重視した販売活動を展開してまいりました。

養鶏用飼料は、昨年関東地区で発生した鳥インフルエンザの影響から取引先の一部で一時的に飼育羽数が減少しており、販売数量は前年同期を下回りました。また、養豚用飼料、魚餌の販売数量は前年同期を上回りました。配合飼料の販売価格は、期中の価格改定実施により前年同期を上回りました。

これらの結果、配合飼料は増収となりました。

鶏卵は、上半期後半で鶏卵相場が上昇したものの、上半期を通じでの販売価格は前年同期を下回り、減収となりました。

これらの結果、売上高は201億79百万円と前年同期に比べ8億32百万円（4.0%）の減収となりました。

倉庫事業 ●●● 18億85百万円（前年同期比7.6%増）



穀物サイロ関連では、政府所有小麦および搾油用大豆の備蓄削減による保管積数の減少などの影響を受けるなか、主要取引先の安定確保を目指して当社の強みでもある全国有数の荷役能力を活かした営業活動を行った結果、荷役量が増加し増収となりました。株式会社ショウレイにおける冷凍倉庫業務では、保管積数の増加により増収となりました。

これらの結果、売上高は18億85百万円と前年同期に比べ1億33百万円（7.6%）の増収となりました。

その他事業 ●●● 13億53百万円（前年同期比4.3%減）



不動産関連では、事業用建物などの賃料収入のうち旧鶴見工場での建物賃貸が昨年8月末で一部終了したことや、旧札幌支店跡地で実施した分譲マンション事業が前期で終了したこともあり、減収となりました。

これらの結果、売上高は13億53百万円と前年同期に比べ60百万円（4.3%）の減収となりました。

平成18年9月1日に発売された今秋の家庭用新製品4品目をご紹介します。
人気シリーズに新しい商品が加わって、ますます充実のラインナップ！
「美味しさ」と「作る楽しみ」をご家庭へお届けして、ご好評をいただいています。

揚げたてもちもち ドーナツミックス

今までにない新しい食感のドーナツ。まるめて揚げるだけの簡単クッキングだから、手軽におやつ作りを楽しめます。甘さ控えめなので、ココアをまぶしたり生クリームやジャムをディップしたりと、アレンジもいろいろ。



内容量：220g(110g×2袋)
希望小売価格：220円(税別)

●人気の『手作りおやつ工房シリーズ』第3弾

乳幼児から小学校低学年ぐらいのお子様がいるご家庭では、市販品も含めほぼ毎日おやつを食べています。しかし市販品では「安全に対する不安」や「手抜きをしているうしろめたさ」を感じていることも調査でわかりました。「毎日食べるものだからできれば手作りで」「子供と一緒に作って楽しみたい」。そんなお母さんたちのご要望から生まれた人気の『手作りおやつ工房シリーズ』。第3弾は大人も子供も大好きな、もちもち食感のドーナツです。

ヘルシープレミア キャノーラ油

限定品種のキャノーラ油を配合。酸化に強いオレイン酸が含まれていて、サラッと軽い口当たり。ビタミンEが大量に1杯あたり5mg含まれた、とてもヘルシーなオイルです。



内容量：1000g
希望小売価格：780円(税別)

●「健康」と「価格」にこだわったプレミアム油

食用油を購入するときのポイントは「価格」と「健康志向」。特に最近では従来のような健康志向油とサラダ油の使い分けをせず、すべてに健康志向油を使いたいという傾向が高くなっています。「健康感」と「値ごろ感」を兼ね備えたヘルシープレミアは、そんな時代のニーズに応えます。

をご紹介します！

●商品に関するお問い合わせ先●
お客様相談センター
☎0120-325-706
受付時間：平日午前9時から午後5時まで

大好評フライパンクッキングシリーズ！

・・・フライパンで、少ない油で、カラッと揚がる！・・・

揚げ物は、月に数回の頻度で食卓に上がる人気メニュー。でも「カラッと揚がらない」「油の準備と片付けが面倒」といった不満も。当社が提案する『フライパンクッキングシリーズ』は「フライパンでできる」「少ない油でカラッと揚げられる」という画期的な発想と技術で、お客様に高い評価をいただいています。今回は従来の3商品に加えて、新たに2商品が仲間入り！

フライパンでできる 昭和天ぷら粉



内容量：150g
希望小売価格：135円(税別)

●花散りがよく、揚げあがりもキレイ

従来は、たくさんの油で揚げないと花散りがキレイにできませんでした。でも「フライパンでできる昭和天ぷら粉」なら、当社独自の技術で、約2cmの油で天ぷら特有の花散りのある、サクッとした天ぷらを作ることができます。旨さを逃がさず、衣も素材もおいしい天ぷらに仕上がります。

フライパンでできる から揚げ粉 ～和風しょうゆ味～



内容量：90g
希望小売価格：130円(税別)

●フライパンでカリッとジューシー！

必要な油は約1cm。フライパンでカリッとジューシーなから揚げが作れます。経済的で後片付けも簡単。当社独自の新配合設計で、従来の水溶きから揚げ粉にはないサクッと感が楽しめます。濃い口醤油と丸鶏エキス、隠し味に昆布を使い、コクのある味わいに仕上げました。

CSRへの取り組み

「食」に携わる企業として、人々の健康で豊かな食生活に貢献すること。「食」を通じて、責任ある社会の一員としての役割を果たしていくこと。これが私たちの目指す『昭和産業グループのCSR (Corporate Social Responsibility)』です。

昭和産業グループのCSR

私たちはCSR活動を「企業が社会における信頼を高めていくこと」だと考えています。これまでも「おいしさ」と「安心・安全」をお届けするだけでなく、製品の製造過程における環境負荷低減などに積極的に取り組んできました。そして今後さらに広い概念でCSR活動に取り組んでいくため、CSRを推進する組織の設置とともに、『昭和産業グループ CSR行動規範』を制定しております。

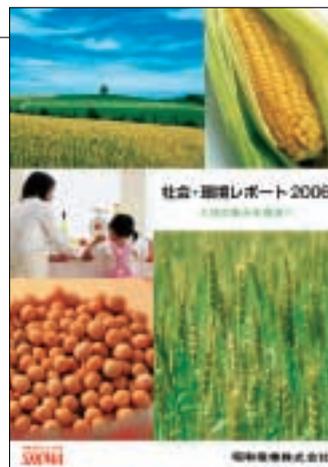
昭和産業グループ CSR行動規範

①安心・安全で高品質な製品の提供	④環境への配慮
すべてのお客様に安心・安全で高品質な製品を提供することを通じて、昭和産業グループに対する信頼と、お客様の満足度の向上を図ります。	企業活動から生じる環境への影響を認識し、地球環境の保全や資源循環型の持続可能な社会形成への寄与に努めます。
②公正な企業活動	⑤社会への貢献
企業市民としての自覚を持ち、コンプライアンスの精神に則った健全な企業活動による収益の追求を通じて、昭和産業グループの継続的な発展に努めます。	企業市民としての役割を自覚し、企業としての社会的責任を果たすことを通じて、健全で豊かな社会の発展に寄与するよう努めるとともに、従業員各人の社会貢献活動を積極的にサポートします。
③人権尊重	⑥ステークホルダーとの対話・情報開示
昭和産業グループのあらゆる企業活動において人権を損なう行為を排除するとともに、従業員一人ひとりの多様な個性・人格・能力を尊重し、チャレンジ精神溢れる企業風土を形成します。	昭和産業グループの企業活動にかかわる情報を適時・適正に開示するとともに、ステークホルダーとの対話を通じて透明性の高い企業活動に努めます。

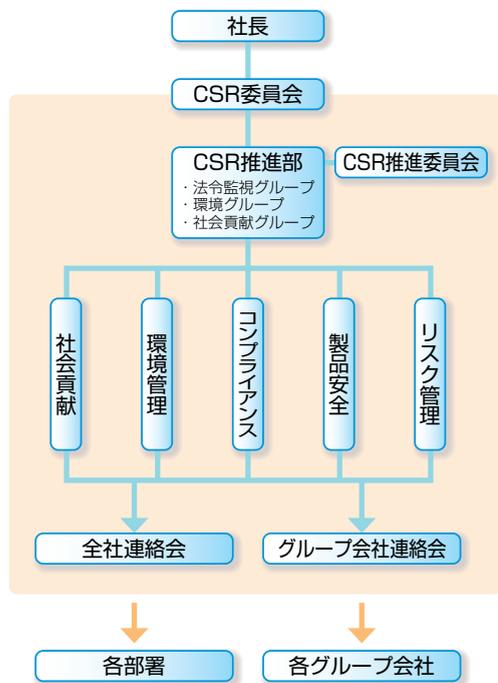


社会・環境レポートを 発行しました

従来からの環境報告書を発展させ、社会性に関する取り組みを充実させた「社会・環境レポート2006」を発行しました。今後も積極的な情報開示を通し、すべてのステークスホルダーの皆様から信頼され続ける企業を目指します。



CSR推進体制



【社会・環境レポート2006】の主な内容

● マネジメント

昭和産業グループの使命、CSRの行動規範と推進体制、またコーポレートガバナンスやコンプライアンス、リスクマネジメント等について、図説などを使って分かりやすくご説明しています。

● 社会のために

お客様、地域社会、株主・投資家の皆様、そして社員。様々なステークスホルダーの皆様と、昭和産業とのコミュニケーションについてご紹介します。

● 地球環境のために

「環境マネジメントシステム」「地球温暖化防止と省エネルギー活動」ほか、環境保全のために昭和産業グループが行っている様々な取り組みについてご報告しています。

※詳しい内容については次号でご説明いたします。

連結財務諸表



● 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期末 平成18年9月30日現在	前期末 平成18年3月31日現在
資産の部		
流動資産	45,727	45,371
固定資産	97,324	96,521
有形固定資産	76,413	76,014
無形固定資産	444	450
投資その他の資産	20,467	20,056
資産合計	143,052	141,892
負債の部		
流動負債	60,345	57,610
固定負債	30,349	31,863
負債合計	90,694	89,474
少数株主持分		
少数株主持分	—	975
資本の部		
資本金	—	12,778
資本剰余金	—	9,007
利益剰余金	—	23,757
その他有価証券評価差額金	—	5,947
自己株式	—	△ 47
資本合計	—	51,442
負債、少数株主持分及び資本合計	—	141,892
純資産の部		
株主資本	45,743	—
資本金	12,778	—
資本剰余金	9,007	—
利益剰余金	24,013	—
自己株式	△ 55	—
評価・換算差額等	5,501	—
その他有価証券評価差額金	5,491	—
繰延ヘッジ損益	9	—
少数株主持分	1,112	—
純資産合計	52,357	—
負債及び純資産合計	143,052	—

(百万円未満は切捨表示しております。)

● 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期
	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで
売上高	87,189	88,722
売上原価	70,046	70,871
売上総利益	17,142	17,851
販売費及び一般管理費	14,481	14,330
営業利益	2,660	3,520
営業外収益	522	441
営業外費用	904	739
経常利益	2,278	3,222
特別利益	147	149
特別損失	196	772
税金等調整前中間純利益	2,229	2,600
法人税、住民税及び事業税	832	526
法人税等調整額	255	601
少数株主損失	—	0
少数株主利益	74	—
中間純利益	1,067	1,472

(百万円未満は切捨表示しております。)

● 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期	前中間期
	平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,662	3,020
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,637	△ 1,838
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 654	△ 2,308
現金及び現金同等物の増減額	△ 2,628	△ 1,125
現金及び現金同等物の期首残高	4,213	3,610
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	443	—
現金及び現金同等物の中間期末残高	2,027	2,484

(百万円未満は切捨表示しております。)

● 中間連結株主資本等変動計算書 (当中間期 平成18年4月1日から平成18年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本					評 価 ・ 換 算 差 額 等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計		
平成18年3月31日残高	12,778	9,007	23,757	△ 47	45,495	5,947	—	5,947	975	52,418
中間連結会計期間中の変動額										
剰余金の配当			△ 1,082		△ 1,082			—		△ 1,082
利益処分による役員賞与			△ 2		△ 2			—		△ 2
中間純利益			1,067		1,067			—		1,067
連結子会社の増加に伴う剰余金の増加額			274		274			—		274
自己株式の取得				△ 8	△ 8			—		△ 8
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)					—	△ 456	9	△ 446	137	△ 309
中間連結会計期間中の変動額合計			256	△ 8	248	△ 456	9	△ 446	137	△ 60
平成18年9月30日残高	12,778	9,007	24,013	△ 55	45,743	5,491	9	5,501	1,112	52,357

(百万円未満は切捨表示しております。)



個別財務諸表

● 中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期末 平成18年9月30日現在	前期末 平成18年3月31日現在
資産の部		
流動資産	30,953	32,316
固定資産	78,953	78,426
有形固定資産	58,640	58,703
無形固定資産	272	304
投資その他の資産	20,039	19,418
資産合計	109,906	110,742
負債の部		
流動負債	38,434	36,648
固定負債	21,200	23,684
負債合計	59,634	60,332
資本の部		
資本金	—	12,778
資本剰余金	—	9,007
利益剰余金	—	22,803
その他有価証券評価差額金	—	5,867
自己株式	—	△ 47
資本合計	—	50,409
負債及び資本合計	—	110,742
純資産の部		
株主資本	44,841	—
資本金	12,778	—
資本剰余金	9,007	—
利益剰余金	23,111	—
自己株式	△ 55	—
評価・換算差額等	5,430	—
その他有価証券評価差額金	5,421	—
繰延ヘッジ損益	8	—
純資産合計	50,271	—
負債及び純資産合計	109,906	—

(百万円未満は切捨表示しております。)

● 中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで	前中間期 平成17年4月1日から 平成17年9月30日まで
売上高	56,338	58,033
売上原価	43,547	44,547
売上総利益	12,791	13,485
販売費及び一般管理費	10,284	10,549
営業利益	2,506	2,936
営業外収益	384	405
営業外費用	572	593
経常利益	2,318	2,748
特別利益	140	147
特別損失	144	565
税引前中間純利益	2,314	2,331
法人税、住民税及び事業税	680	417
法人税等調整額	243	587
中間純利益	1,390	1,326

(百万円未満は切捨表示しております。)

会社の概要 (平成18年9月30日現在)

- 設立 昭和11年2月18日
- 資本金 12,778,008,177円
- 従業員数 1,072名
- 本社所在地 〒101-8521
東京都千代田区内神田2-2-1 鎌倉河岸ビル

- 事業所
大阪支店 / 名古屋支店 / 仙台支店 / 札幌支店
福岡支店 / 広島支店 / 関東信越支店 / 千葉出張所
南九州出張所 / 鹿島工場 / 神戸工場 / 船橋工場
総合研究所 / 食品開発センター

役員

取締役および監査役

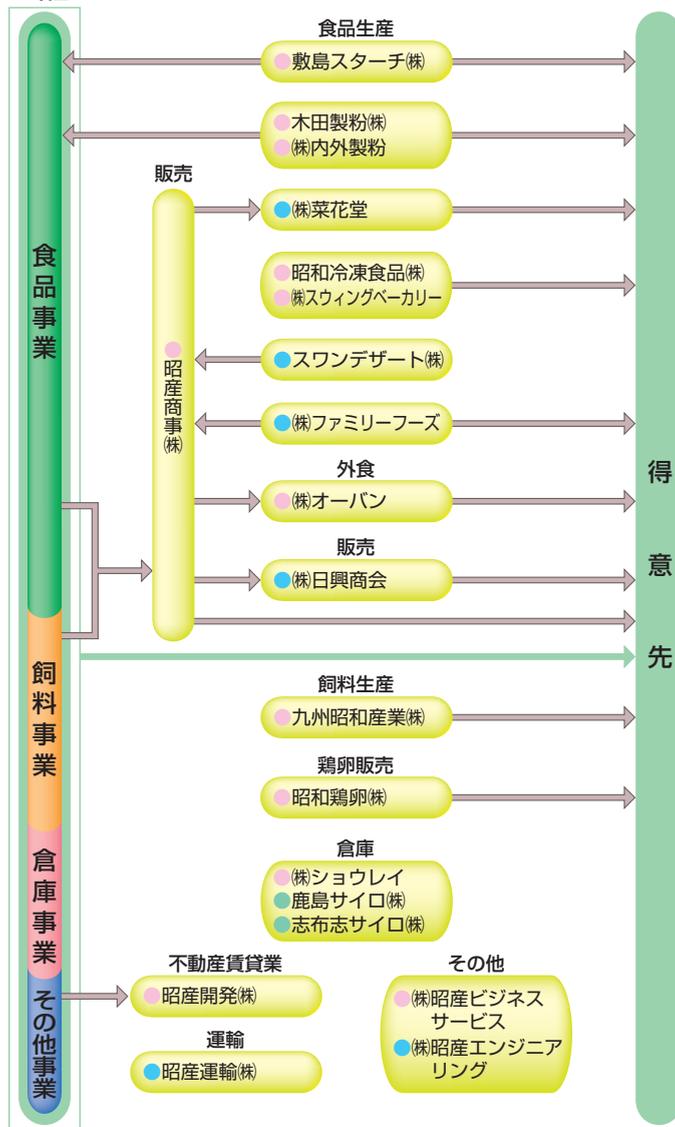
取締役社長 (代表取締役)	福井茂雄
専務取締役 (代表取締役)	横澤正克
専務取締役	栗原忠夫
常務取締役	江口寛
常務取締役	金澤多計志
監査役(常勤)	金吉誠之
監査役(常勤)	細川純治
監査役	鈴木孝雄
監査役	中台好弘

執行役員

常務執行役員	信岡正治
常務執行役員	御法川修
執行役員	石居義生
執行役員	田中富男
執行役員	佐久間潤
執行役員	小川敏郎
執行役員	岡田茂爾
執行役員	四宮哲爾
執行役員	村井眞哉
執行役員	笠井敏雄

グループの概要

当社



● 連結子会社 ● 非連結子会社 ● 持分法適用会社
 ⇨ 製品および役務の流れを示しております。

株式情報 (平成18年9月30日現在)

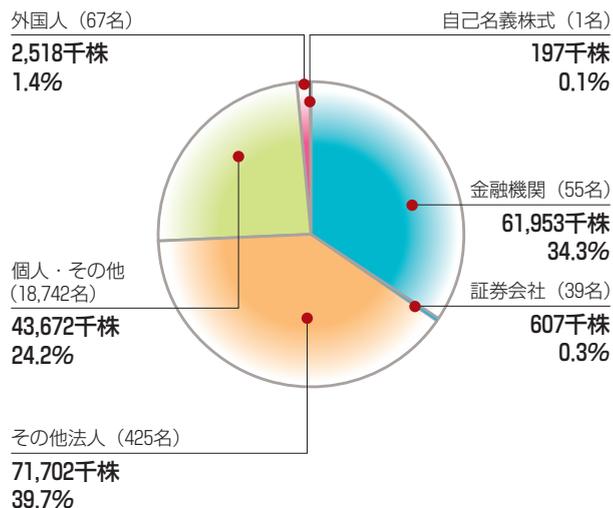
株式の状況

発行可能株式総数	720,000,000株
発行済株式の総数	180,649,898株
株主数	19,329名

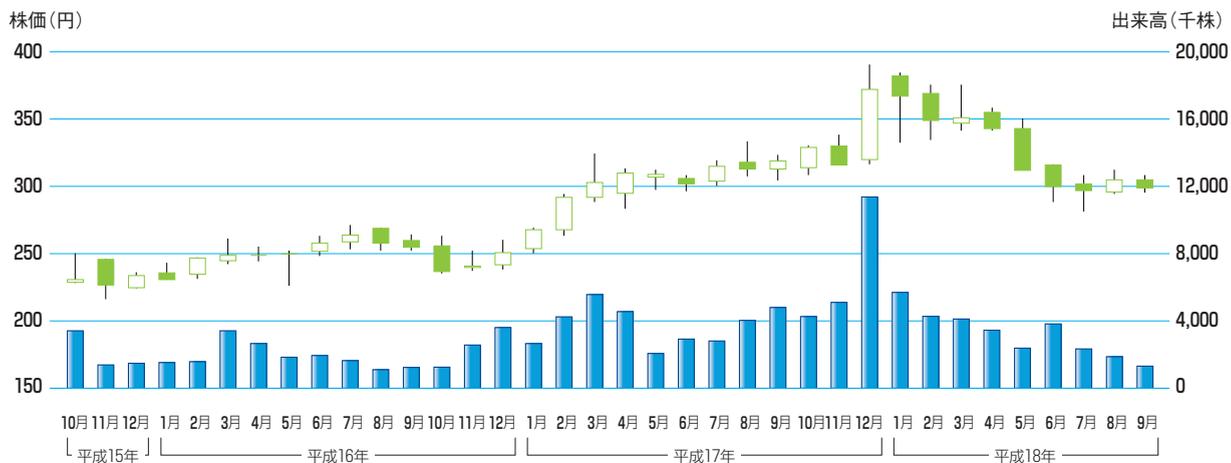
大株主(上位10名)

株主名	所有株数	出資比率
伊藤忠食糧販売株式会社	17,372,000株	9.6%
双日株式会社	11,525,016	6.4
日本興亜損害保険株式会社	8,545,501	4.7
株式会社千葉銀行	7,875,528	4.4
三井物産株式会社	7,700,000	4.3
農林中央金庫	5,515,396	3.1
東京海上日動火災保険株式会社	5,169,328	2.9
ユアサ・フナシヨク株式会社	5,165,600	2.9
株式会社カーギルジャパン	4,701,000	2.6
株式会社みずほ銀行	4,596,582	2.5

所有者別株式分布状況



株価と出来高の推移



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
公告の方法	日本経済新聞に掲載
基準日	3月31日
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-232-711
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 各支店 野村證券株式会社 本店・支店
	○株式関係のお手続用紙のご請求は、次の三 菱UFJ信託銀行株式会社の電話およびイン ターネットでも24時間承っております。 ☎0120-244-479 (本店証券代行部) ☎0120-684-479 (大阪証券代行部) http://www.tr.mufg.jp/daikou/
1単元の株式数	1,000株

株主優待制度のお知らせ

当社では、株主様へのご優待サービスとして、年1回、自社製品をお送りしております。ご家庭の食卓で「日本をおいしくするSHOWA」の味をお楽しみください。

- ◆対象は毎年基準日(3月31日)時点で、1,000株以上保有の株主様に対し、自社製品を以下の基準により贈呈いたします。
- ◆お届けは毎年7月上旬になります。
- ◆来年の商品内容については未定となっております。

※写真は平成18年7月にお送りしたものです。



- 1,000株以上5,000株未満保有の株主様
→2,000円相当の自社製品を贈呈。



- 5,000株以上保有の株主様
→5,000円相当の自社製品を贈呈。

昭和産業株式会社

〒101-8521 東京都千代田区内神田2丁目2番1号 鎌倉河岸ビル
TEL. 03 (3257) 2011 FAX. 03 (3257) 2180
<http://www.showa-sangyo.co.jp/>



本報告書は、環境保全のため、古紙100%再生紙を使用し、「大豆インク」で印刷しています。